



民謡の調査発掘普及

さ さ き よ し じ ろ う
佐 々 木 由 治 郎

(94歳)

住所
秋田市

長年にわたり、県内の民謡の調査・発掘に努め、その成果を、昭和57年8月から平成元年4月まで、秋田県広報紙「あきた」に、個々の秋田民謡の発生から伝承経過、正確な歌詞・曲調を解説した「ふるさとの民謡」として掲載した。これは、貴重な文化遺産である民謡の記録として学術的にも高く評価されるとともに、「民謡のてびき」として広く活用されている。

また、各種コンクールの審査委員長を勤めるとともに、昭和56年12月には秋田県民謡協会相談役に就任したほか、新作民謡選考委員として活躍し、後進の指導にも尽力するなど秋田民謡の向上発展に大きく貢献している。



民謡の普及発展

むら やま たしちろう
村 山 多七郎

(84歳)

住所
秋田市

昭和28年から民謡酒場「有楽」を経営する傍ら、多くの民謡家を指導育成し、「川崎マサ子」「小野花子」らを日本一にまでに育て上げた功績は高く評価されているほか、長らく映画の興業に携わり、同業組合の役員を歴任し、大衆娯楽の確立に尽力するとともに、昭和44年から10年間、東京文京公会堂で「民謡王国秋田」を公演するなど、秋田民謡を全国に普及された功績は大きなものがある。

また、各種の民謡コンクールにおいて、審査員として活躍するほか、昭和40年から郷土日本民謡協会秋田連合会会長、50年からは秋田民謡協会の副会長、会長を歴任し、秋田民謡の向上発展に大きく貢献している。



郷土芸能の再興、保存発展

いし かわ せい ご ろう
石 川 清 五 郎

(83歳)

住所

平鹿郡十文字町

昭和22年、廃滅の危機に瀕していた仁井田番楽を再興するため、保存会を結成して、後継者の育成、資材の整備に務め、その保存伝承に貢献した。

「秋田県無形文化財調査」が開始した昭和30年から調査員として、番楽の歌詞、詞章のすべてを記録し、それを取りまとめた報告書は貴重な伝承の教本として活用されている。

昭和39年、仁井田番楽が最も早い時期に県無形民俗文化財に指定されたことは、氏の尽力によるところが大きく、現在では県内外での多数の公演のほか「民俗芸能大会」「県芸術文化祭」に参加するなど民俗芸能の振興発展に貢献している。



合唱による音楽の普及発展

おおもり たかお
大 守 崇 男

(79歳)

住所
秋田市

昭和12年から57年まで小学校等の教師として子弟の教育に携わる一方、昭和21年、戦後の荒廃した世情のもと、秋田県音楽同好会、秋田市築山小学校に「エプロンコーラス」を結成し、音楽による人心の安定に尽力した。

昭和39年には、秋田少年少女合唱団を結成するとともに、数多くの合唱団を組織化した秋田市民合唱連盟の発足に参画し、会長として会員数1,500名の全国的にも極めて規模の大きい組織に育てるなど、その功績は大きいものがある。

また、市民合唱祭を開催して、本年は第32回目を迎える等、本県合唱愛好者の連携・交流に務め、音楽文化の向上に大きく貢献している。



洋画の普及発展

こん の ご ろう (雅号 紺野)

(79歳)

住所
湯沢市

昭和11年から教壇に立ち、美術教育に携わる一方、温厚な人柄、卓抜な見識と優れた指導力により、生徒の美術活動の向上に尽力するとともに、長年にわたり県内の洋画界をリードし、本県洋画の普及発展に多大な貢献をしている。

また、美術教育の傍ら、自らも創作活動に精励し、昭和37年の日本美術展での入賞をはじめ、昭和46年には新制作協会展において新作家協会賞を受賞した。

さらに昭和50年には新制作協会会員に推挙されるなど、洋画家としての非凡な才能が高く評価されている。



地域経済の発展

いの うえ りょう すけ
井 上 了 介

(75歳)

住所
秋田市

昭和20年秋田銀行入行、昭和42年に取締役就任以来、常に経営の中核にあって、卓越した識見と優れた指導力を発揮し、同行のみならず県金融業界のリーダーとして地域経済・産業の発展に大きく貢献した。

また、同行の持つ広域店舗網を活用しての県産品の販路開拓運動、既存企業の経営危機に際した救済、再建に対する主導的役割、県内産業構造の転換及び企業誘致の推進に大きな役割を果たすなど、経済人としてその存在は誠に大きく称賛されている。

このほか、秋田県経営者協会会長等の数多くの公職を歴任したほか、県内唯一のシンクタンクである秋田経済研究所を設立し、県内経済・産業の調査研究、各種コンサルティング業務、研修・講演活動等を積極的に実施するなど地域産業の育成に多大な貢献をしている。



産業の振興、地域経済の発展

いの うえ ひろし
井 上 博

(71歳)

住所
東京都

約半世紀にわたり、我が国の合板工業の発展に情熱を傾けてその礎を築き上げた功績は誠に大きなものがあり、「社業の発展を通じて社会に貢献する」との経営方針は、木材・合板業界の近代化に貢献するとともに、住宅資材等の供給を通じて国民生活に寄与してきている。

特に本県においては、その卓越した経営感覚のもと、秋田プライウッド、東洋合板工業、新秋木工業等を短期間のうちに再建した功績は特筆すべきものである。

今日の本県合板工業会を優良業界として確立し、雇用の拡大、従業員の福祉の向上、地域経済の発展と計りしれないほどの波及効果を生み、本県の産業経済の振興に大きく貢献している。